直向きな取り組みが、ここまで親の心を動かすとは…

以前、当ＨＰの「女性のもつ生命力の強さには、感嘆、感服、敬服！（「雑学ＢＮ」の随想等関係（Ｖ）Ｐ、2007.01.28.）」で触れた障害児放課後ケアに取り組む友人たちに、９月から更に活動を広げる準備中の場所に案内された。

地下鉄駅のごく近い所に、完成間近の駐車場ビルの１Ｆが活動場所として提供され、運営を委託されたとか。
そのオーナーは障害児の父親で、わが子のことを考えたにしても「ここまでやる親が今時いるのか」と驚愕した。
何分、駐車場ビルの１Ｆですから、その広さ、想像できるでしょ。

「放課後ケア」用に作ったとはいえ、ホール、トイレ、キッチン、シャワー室、等々、全てバリアフリー。既に、そのスペースの一角には、１５畳の畳が敷かれ、その空間は必要な時は仕切れるようになっていた。
先々、障害者のデイケアとしても十分なスペース。
また、事務室、ロッカールーム等も整備されていた。
更に、駐車場にはこのＮＰＯ専用の数台分のスペースも確保され、既に名入りのステッカーが貼られていた。

友人たちは、このお子さんの小学入学時からもう数年係わっているとか。
お子さんは、他所での支援活動にはあまり馴染まないのに、友人たちの支援活動には行きたがる姿を見て、両親は友人たちに運営委託しよう。
というより、ご両親は友人たちスタッフの真摯な姿勢に接したからこそ、駐車場ビルの１Ｆを活用しようと思いついたのかも…。

部屋の作り、調度品の凄さ等にも驚いが、それより、日頃子どもたちと真摯に、直向きに取り組んでいる友人たちの姿勢が、ここまでお子さんたちや親御さんたちに信頼されている証のようにも思え、安心もし、また、嬉しかった。
やはり、究極的には生きるとは人間関係であり、日々の真摯な、直向きな姿勢が人の心を動かすことを、改めて教えられた。

見学した日の後刻、「今日はいろいろな話をありがとうございました。私たちの元気がなくなってきた頃に、また栄養を与えに来てください。」とのメールがスタッフから入った。
「まずは一歩を踏み出さないことには道は出来ませんので、困難も多いかと思いますが、これからも一歩、一歩、歩んでくださいね。具体的には本当に何もお手伝いできませんが、元気回復薬はいつでも処方しますからね(^o^)」と返信した。

阿部幸泰　　（2007 年 6 月 22 日　記）